

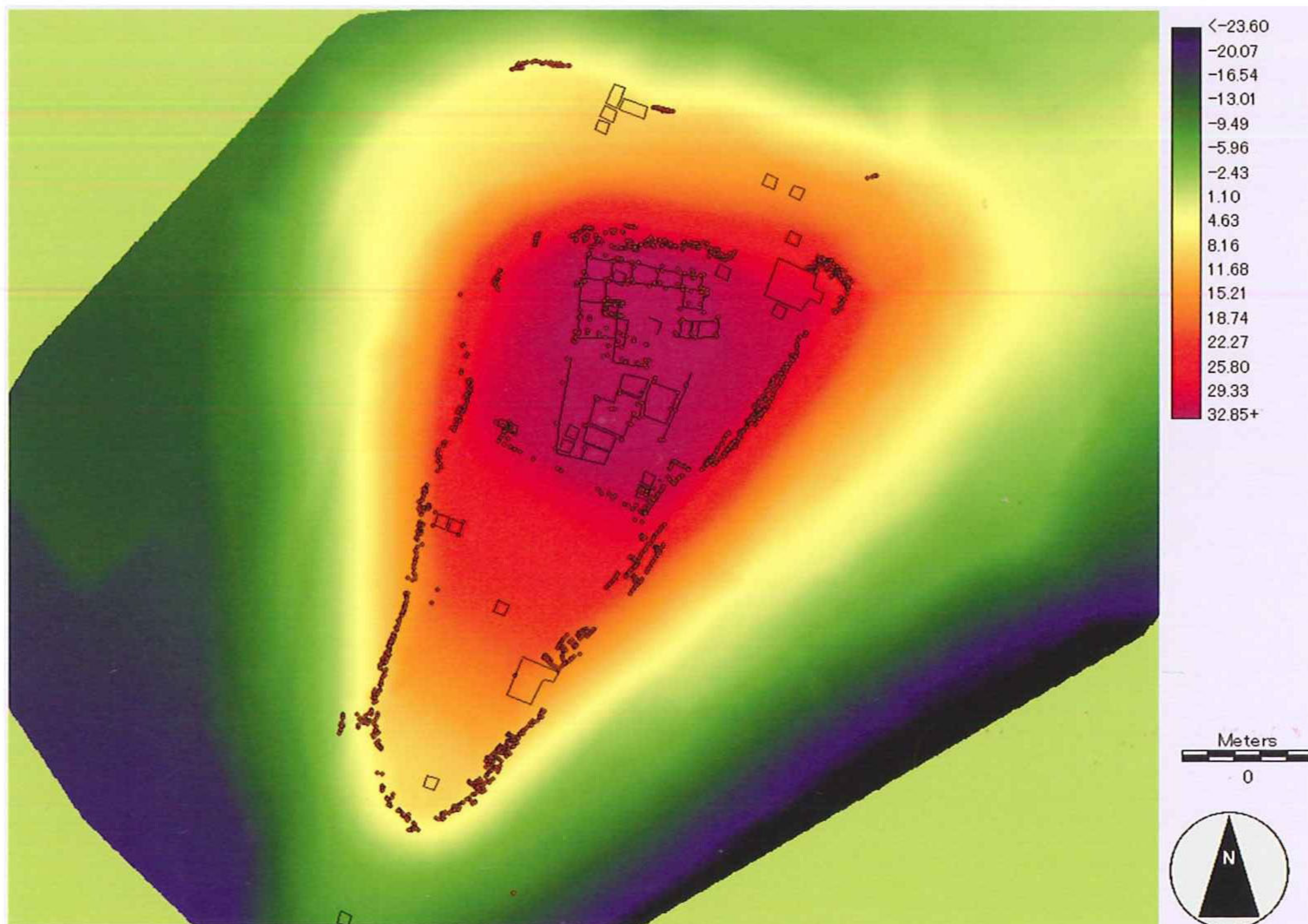
コラム
1

GIS・トータルステーションを活用した3次元計測

テル・レヘシュ遺跡の発掘調査を開始する前の大きな問題のひとつは、遺跡全体の精密な地形測量図が手元にないということだった。しかし、事前の様々な検討や準備をおこなう中で、ペンシルベニア州立大学のアレクサンダー・ヨフィーという研究者が1998年に表面調査を行い、精密な地形測量図を作成・報告していることが明らかになった。幸い、同氏の好意により、地形図のデータを提供してもらうことができ、それを利用しながら発掘調査を進めることができた。その後、国際日本文化研究センターの宇野隆夫氏の支援により、トータルステーションやGISを利用しながらDEM（デジタル・エレベーション・マップ）を作成し、調査区の位置や地表に露出している石組のラインを計測して3次元的な座標上にプロットする作業などを行った。これにより、ローマ時代の大型建築遺構（ファームハウス）の平面的な構造を復元し、上の町を囲む城壁の位置や規模を明らかにすることが可能になった（桑原）。



トータルステーション作業風景



GISによる露出石組みの記録（DEMの作成は宇野隆夫氏による）